

市民として出来る都市型里地・里山の保全と活用

チーム名：「どうする里山」しらんけど

リーダー：釣井 基司、メンバー：小寺弘之、鈴木克海、長谷川満敏、日比潤一

神戸市は、須磨区と垂水区に囲まれ豊かな自然環境が多く残る多井畑西地区において里山の保全と活用に向けた取り組みを進めています。

グループでは、この取り組みに興味を示す人が多かったことから、我々の学習のテーマに選びました。まず、同地区の現状と取り組みの進捗状況を把握するための現地調査、そして、取り組みの主体である神戸市と保全活動に参画する民間企業へのヒアリングを行いました。

同地区は、一部貸農園として地元の住民に利用されているほか、民間企業による竹林の伐採など部分的な範囲で手を入れている状況は見受けられましたが、全体としては耕作放棄された田畑が多く里山林の荒廃も進んでいるうえ、車輛の通行に不可欠な里道が未整備で目に見える形での保全活動が進んでいるとはいえない印象を持ちました。

市として、様々な課題を一つずつクリアしながら進めているとのことでありましたが、まず、行政として実現の本気度を見せるため早期にインフラやライフラインの整備に着手することがアクションプランを大きく進める第一歩になるのではないかと思います。

同地区の保全と活用には、都市近郊というその地域性から自然や環境面だけに目を向けるのではなく、新たな里山資源を経済的活用につなぐことが大切です。

自然豊かな里地里山を未来に受け継いでいくためには、良好な景観形成、生物多様性など様々な取り組みが必要で、地域住民、民間企業、ボランティアなどの協力と支援は欠かせません。

市民として里山の保全に関心を持ち積極的に参加することで持続可能な里山の保全につながるのではないのでしょうか。「しらんけど」

